

課題番号	6	分野名	特用林産	予算区分	県単
研究課題名	ワサビの栽培に関する研究				
担当者名	野澤 彰夫		研究期間	平成18～22年度	
<p>目的</p> <p>平成14年度に農薬取締法が改正され、沢ワサビには農薬が使用できなくなった。このため、農薬に代わる害虫防除法について強い要望がある。そこで、ドーム型ネットを利用した害虫防除対策について調査を実施した。また、特定防除資材（重曹）についても検討した。</p> <p>方法</p> <p>1 試験区</p> <p>鹿沼市入粟野地内：前年度4月に植栽・設定した調査区（対照区4面、白寒冷紗ネット区高さ50cmと80cmの2種を2面ずつの計4面）とし、その内の5面（対照区2面、50cmネット2面、80cmネット1面）はVU管（薄肉塩ビ管）埋設。</p> <p>佐野市野上地内：前年度4月に植栽・設定した調査区（対照区2面、高さ50cm白寒冷紗ネット区を2面）とし、対照区とネット区にそれぞれ1面ずつ計2面はVU管埋設。この試験地では、上部の樹木による遮光が強かったために日照不足による生育不良と考えられたため、3月に上木の被圧枝の伐開をして日照の確保をし、生育環境の改善を行った。</p> <p>2 調査方法</p> <p>病害虫発生調査：鹿沼市及び佐野市の試験区において、前年度の4月に植栽した苗について、その後の病害虫発生状況を観察した。</p> <p>特定防除資材（重曹）によるべと病の防除試験：べと病の被害が多く見られた鹿沼市の試験区において、特定防除資材（特定農薬）に指定されている重曹（炭酸水素ナトリウム）を用いて試験を実施した。半数の面（対照区・ネット区、各2面）の苗に対して、6月11日及び6月19日に、重曹1,000倍希釈液（展着剤少量添加）を茎葉の表裏に十分散布し、その後の症状を観察した。</p> <p>結果概要</p> <p>1 病害虫発生調査</p> <p>鹿沼市・佐野市ともカブラハバチ（クロムシ）の被害が最も激しかった。調査等のためネットをはずすと、クロムシが水流に浮かんでワサビに乗り移り、一部被害を受けてしまったが、ネットの防虫効果は高いと判断された。モンシロチョウ（アオムシ）やヘリジロカラスノメイガの被害も対照区では見られたが、激しい被害ではなかった。</p> <p>病害としては、鹿沼市・佐野市とも、対照区・ネット区とも、べと病の被害が目立った。</p> <p>2 特定防除資材（重曹）によるべと病の防除試験</p> <p>ネット区は病徴の進行が1週間ほど遅れる傾向があったが、散布区・対照区とも被害の進行に大きな違いは見られず、効果は認められなかった。重曹は野菜等の灰色かび病やうどんこ病に対して薬効が認められているものだが、ワサビのべと病には効果がないものと考えられた。</p> <p>3 苗の生育状況</p> <p>鹿沼市の試験区では泥の流入が多すぎるためか、VU管の有無による効果ははっきりしなかった。また、7月末に上流から用水に泥が混入して10cm程度の厚みで堆積したため、ワサビの生育が困難となった。これまでも、用水に泥が混入して堆積するのを除去しながら試験を続けてきたが、上流域で重機による土砂の攪乱があるため試験継続は困難と判断した。</p> <p>佐野市の試験区では作土が石礫で条件が良かったためか、VU管の効果ははっきりしなかった。根茎が成長してくると、VU管に当たって変形するものもあるので注意が必要である。日照の確保により生育が著しく良好となり、対照区では高さ80cm程度になるので、高さ50cmのネットではネット内に茎葉が詰り状態となった。ネットの高さをもっと確保する必要がある。</p>					